

# 「二輪車リサイクル自主取り組み実施報告」

2013年8月7日

二輪車リサイクル自主取り組み参加事業者連絡会

参加事業者 16社：本田技研工業(株)、ヤマハ発動機(株)、スズキ(株)、川崎重工(株)、(株)成川商会、(株)MV AGUSTA JAPAN、Piaggio Group Japan(株)、(株)福田モーター商会、(株)イーケイエー、(株)プレストコーポレーション、(株)ブライト、ドゥカティジャパン(株)、ビー・エム・ダブリュー(株)、トライアンフ・ジャパン(株)、(株)エムズ商会、伊藤忠オートモービル(株) (2013年7月末現在)

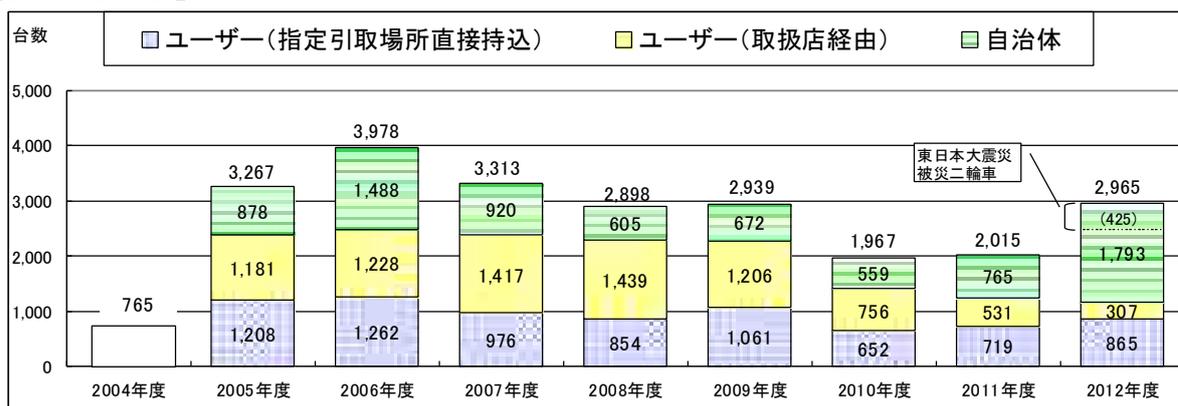
2004年10月に開始した二輪車リサイクルシステムは、2011年10月からの廃棄時無料引取開始を経て、廃棄二輪車の適正処理・リサイクルのためのセーフティネットとして安定的に機能している。

## 1. 運用実績

### (1) 2012年度実績

- ① 引取台数：前年度の2,015台に対し2,965台と増加した。特徴は以下のとおり。
  - 一般ユーザーから指定引取場所に持ち込まれた台数は865台、廃棄二輪車取扱店経由で持ち込まれた台数は307台であった。
  - 自治体からの引取りは前年度の68自治体765台に対し、68自治体1,793台であった。利用自治体数は増加していないが、利用自治体68自治体のうち39自治体は新規利用であり、一般廃棄物担当部署の他、道路・公園等を管理する部門、警察、住宅管理組織等、利用部署が多様化した。
  - 自治体排出の内、被災車両が425台あり、引取台数全体の14.3%であった。
  - 引取車両の内、本システム開始後に販売された車両（リサイクルマーク付き車両）は18.2%（541台）と前年度（26.7%）に比べて割合が低下したが、これは、引取台数に占める被災車両の年式が古いことによる。

#### 【引取実績推移】



注) 2004年度は排出者の属性を特定していないため、引取総数。

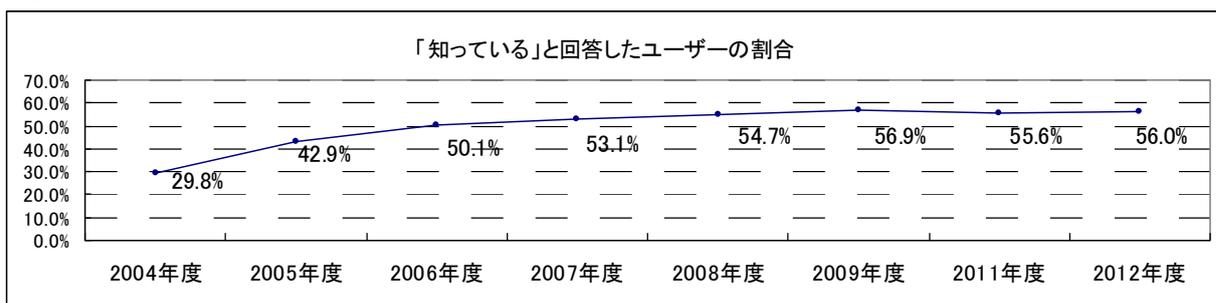
- ② 再資源化率：一部の処理施設においてシュレッダーダストのサーマル活用を促進した結果、前年度の88.2%に対し93.6%と5.4%向上した（重量ベース）。

## (2) 周知広報活動

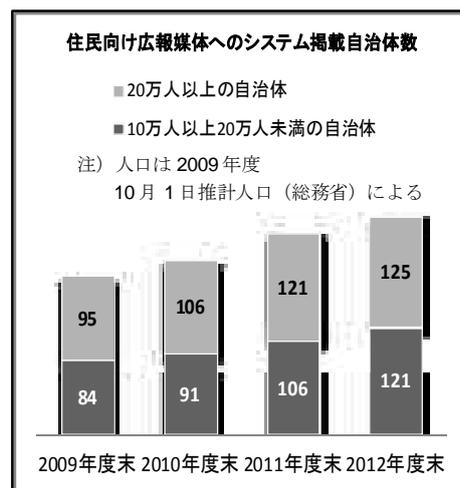
公益財団法人自動車リサイクル促進センター（以下「JARC」）を通じて以下の周知活動を行った。

- ① 住民への周知：ごみカレンダー等の住民広報媒体に本システムの情報掲載を推進すべく、自治体の清掃部門及び道路管理部門に対し、電子メールによる案内、パンフレット配布、及び直接依頼を行った。その結果、人口10万人以上の290自治体中246自治体、うち人口20万人以上では133自治体中125自治体が、また、東京都23区全てが、ウェブサイト等の住民広報媒体で本システムを案内している（JARC調べ）。
- ② 二輪車ユーザーへの周知：二輪車イベント及び環境イベントでの出展ブース、自治体他関係団体、全国運輸支局、指定引取場所、廃棄二輪車取扱店等を通じ、約18万部のパンフレットを配布した。周知度測定によれば、本システムを「知っている」との回答が56%であった（二輪車イベント会場でのユーザーアンケートより）。

### 【二輪車リサイクルアンケート調査結果】



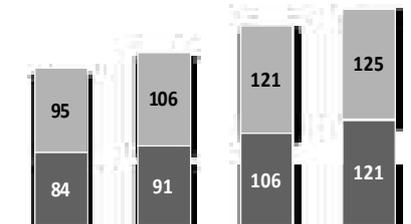
注) 2010年度はイベント中止のため、調査未実施。



住民向け広報媒体へのシステム掲載自治体数

■ 20万人以上の自治体  
■ 10万人以上20万人未満の自治体

注) 人口は2009年度  
10月1日推計人口（総務省）による



2009年度末 2010年度末 2011年度末 2012年度末

## (3) その他

- ① 廃棄二輪車取扱店：廃棄二輪車取扱店は、参加事業者各社の広域認定範囲外であるが、排出者に対するシステム案内の質を向上させるため、取扱店の見直しを行うとともに、新たな説明ツールを配布した（2013年3月末現在のウェブサイト上公表「廃棄二輪車取扱店」数：5,669店）。
- ② 災害廃棄物対応：前年度に引き続き、震災地域の自治体に対し被災車両の引取り案内を実施した。

## 2. 2013年度の重点的取り組み

### (1) 周知広報活動

地域住民への本システム案内の強化を自治体に働きかけるとともに、二輪車ユーザーへの周知を行う。また、効果的な周知広報とするため、中長期的な施策及びその効果測定方法を検討する。

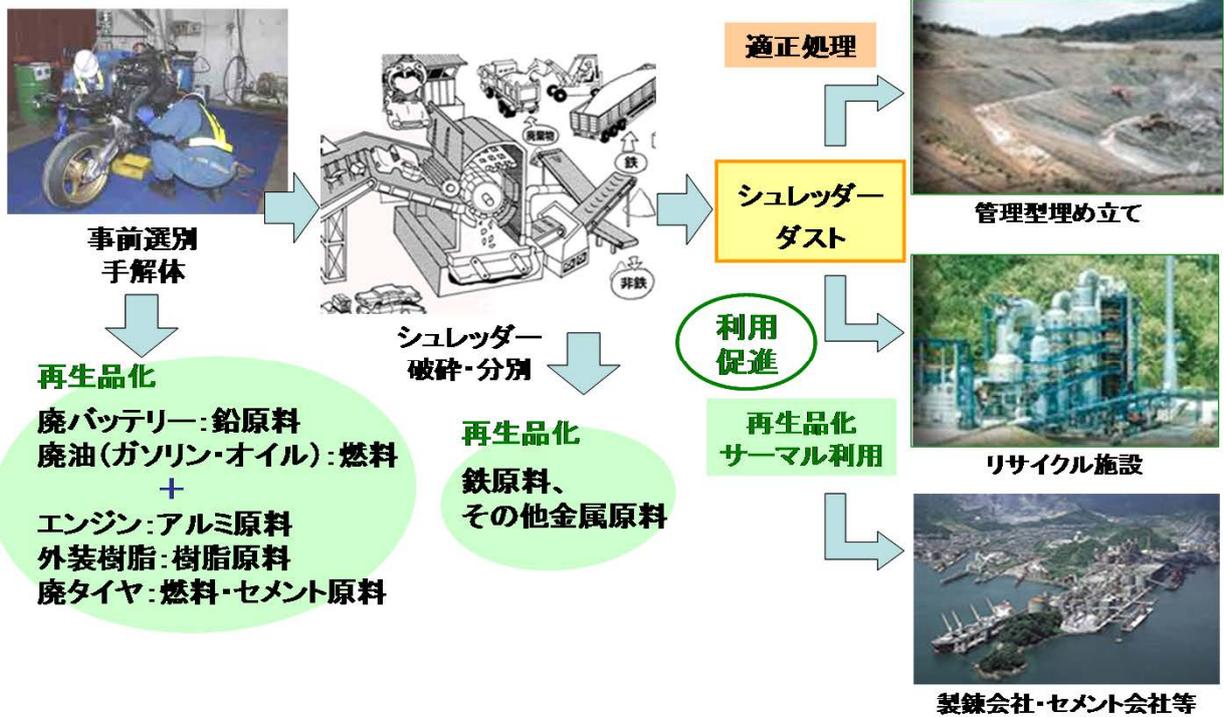
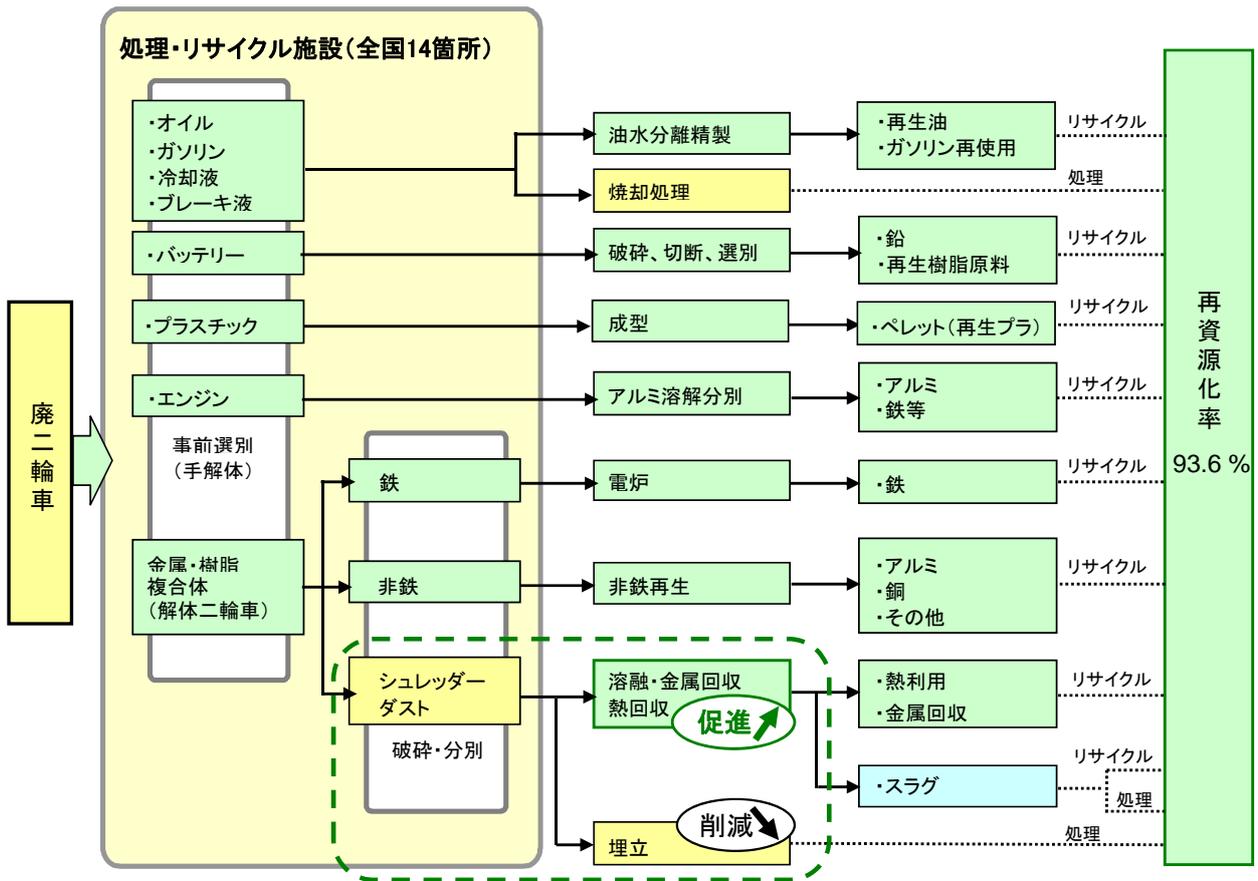
### (2) 再資源化率

シュレッダーダストのサーマル活用を更に促進し、2015年の再資源化目標率95%の早期達成を目指す。

以上

# 平成24年度 二輪車リサイクル自主取組み 再資源化率

## ①二輪車リサイクル マテリアルフロー



## ②再資源化率計算式

$$\text{再資源化率 (93.6\%)} = \frac{\text{オイル・ガソリン回収重量} + \text{バッテリー回収重量} + \text{樹脂その他回収重量} + \text{鉄・非鉄回収重量} + \text{シュレッダーダスト熱回収重量}}{\text{受入総重量} = 258.4\text{t}} = 241.8\text{t}$$

